

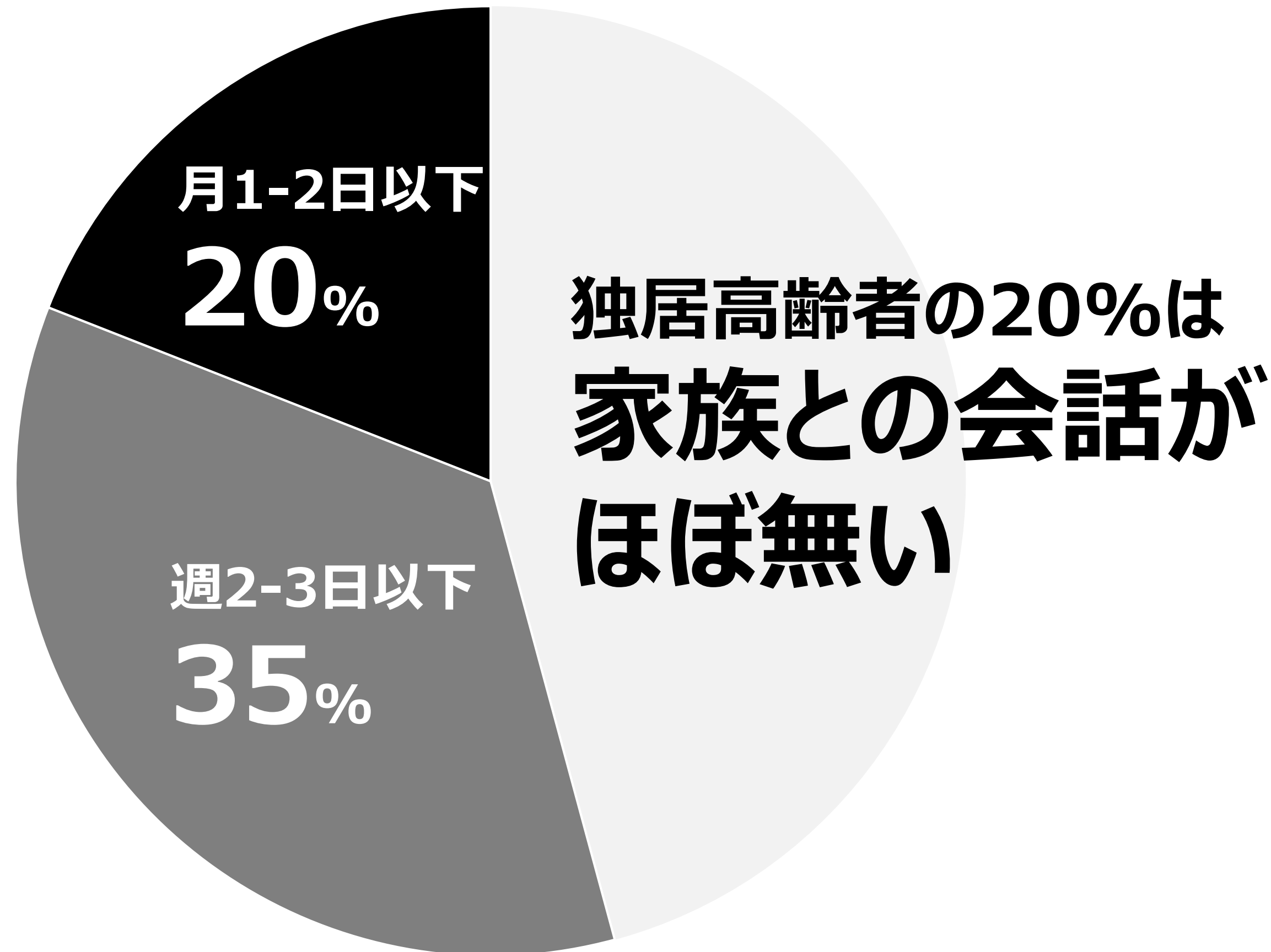
A woman in a light blue shirt is sitting and talking to an elderly couple. The woman is on the right, smiling and gesturing with her hands. The elderly couple is on the left, also smiling and looking towards the woman. The background is a bright, slightly blurred indoor setting.

離れて暮らす家族のライトな見守りニーズの高まりに
ゆるやかに繋がるコミュニケーションで応えていく

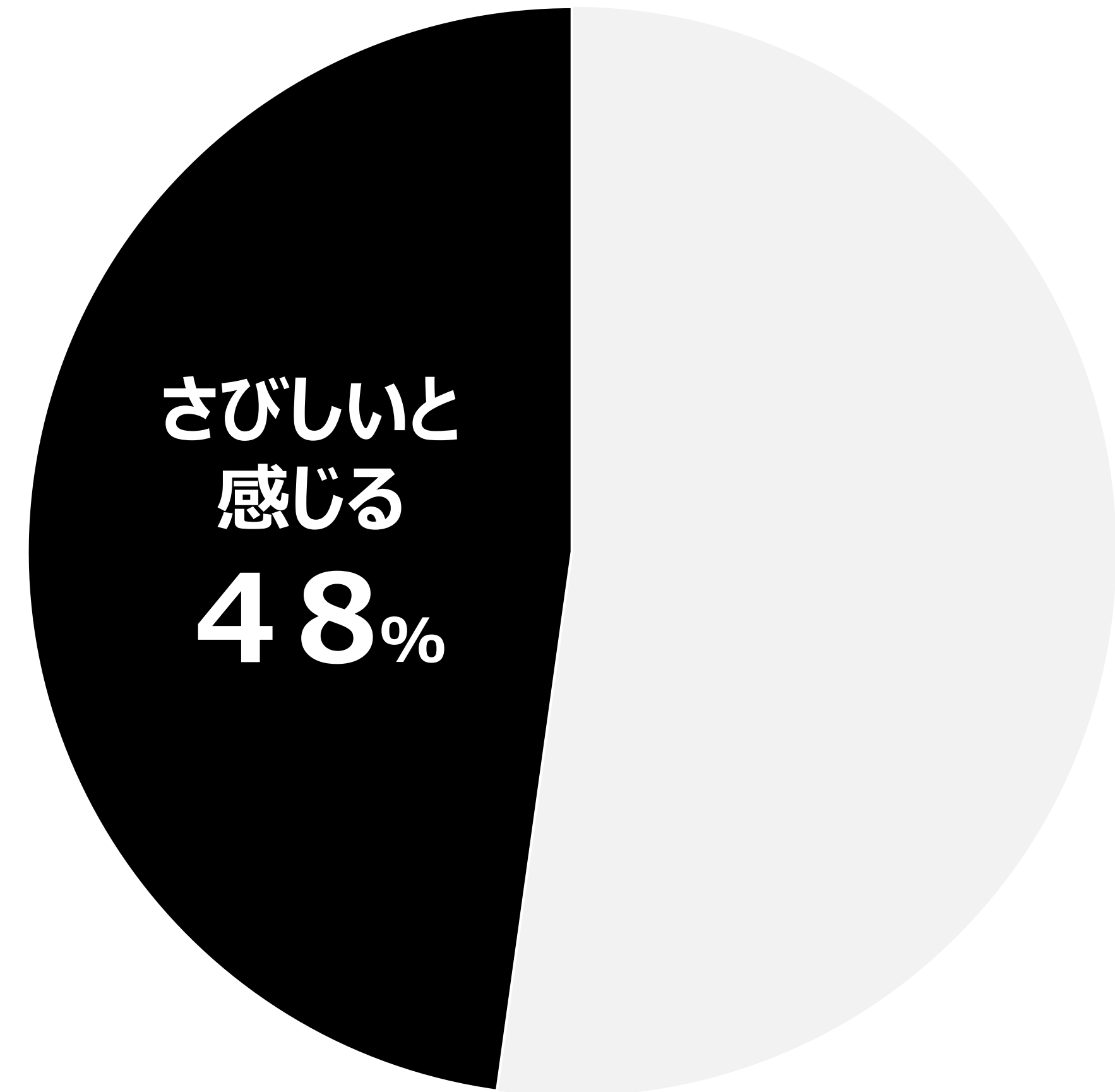
「たのしい、みまもり。」をコンセプトとした
新見守りサービス

まごチャンネル

with SECOM



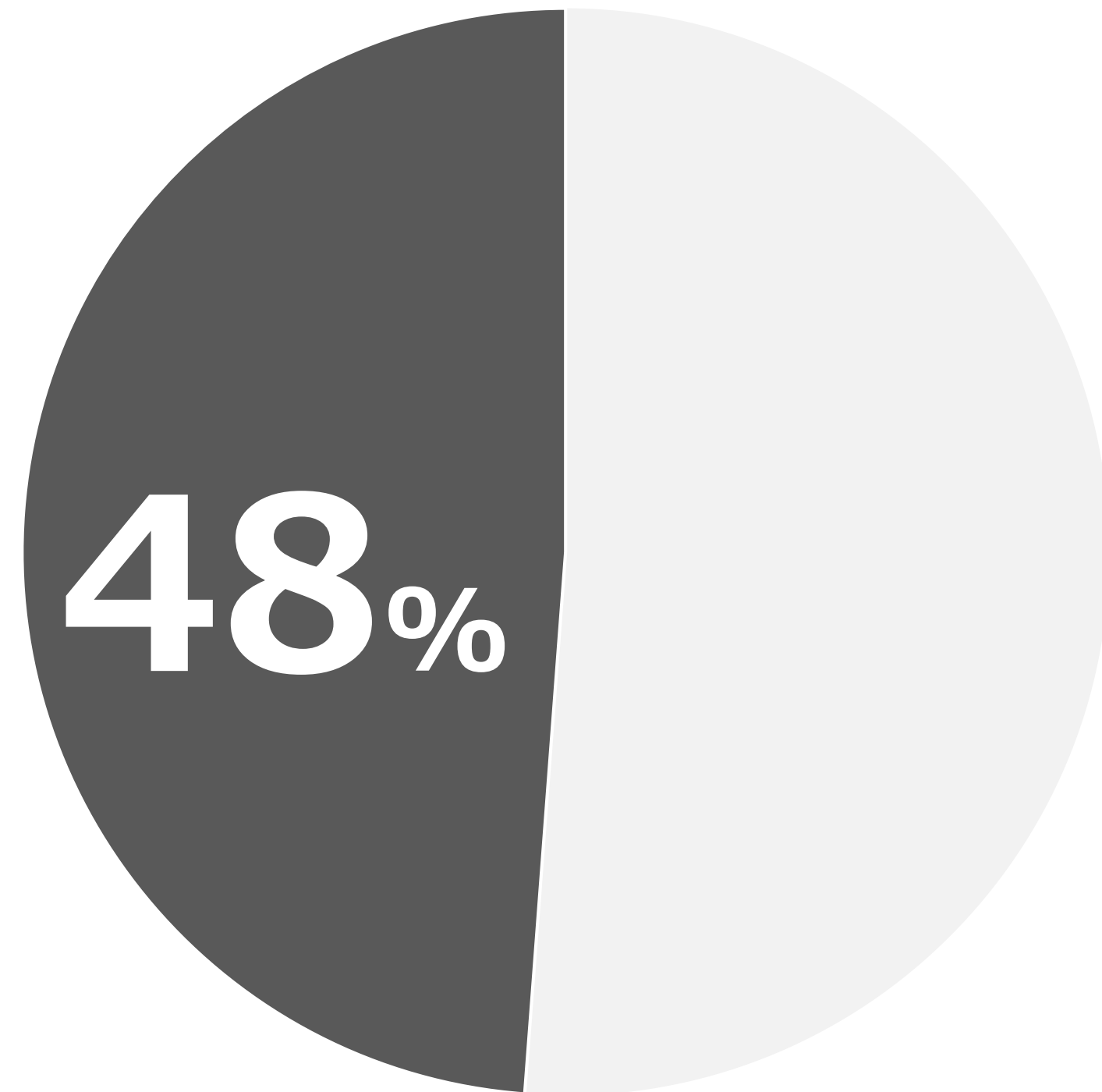
家族・友人との会話頻度
(独居高齢者 - 男性)



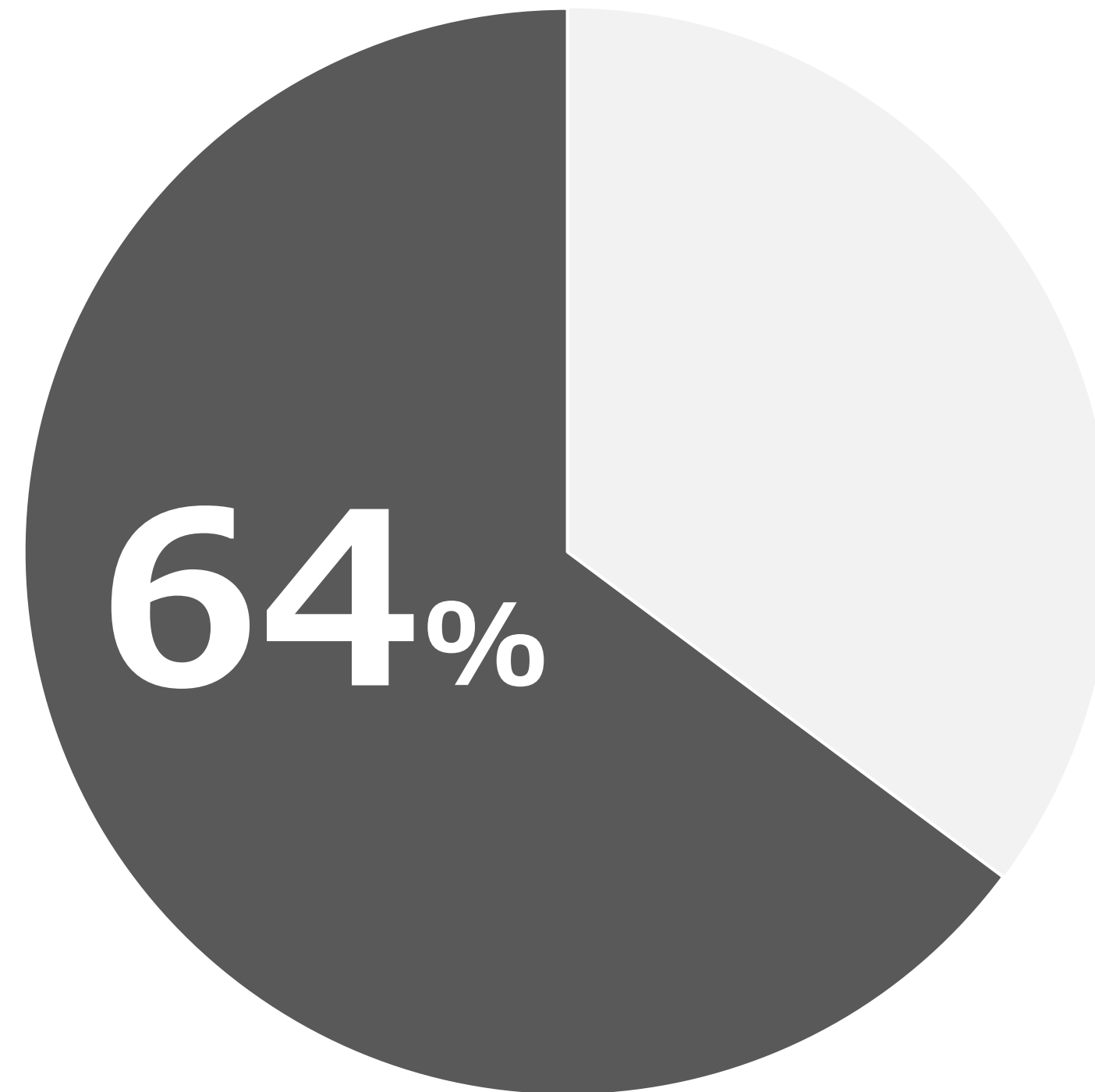
八王子市 生活意識調査
(50代以上)

課題： 家族との繋がりをどう増やせるか

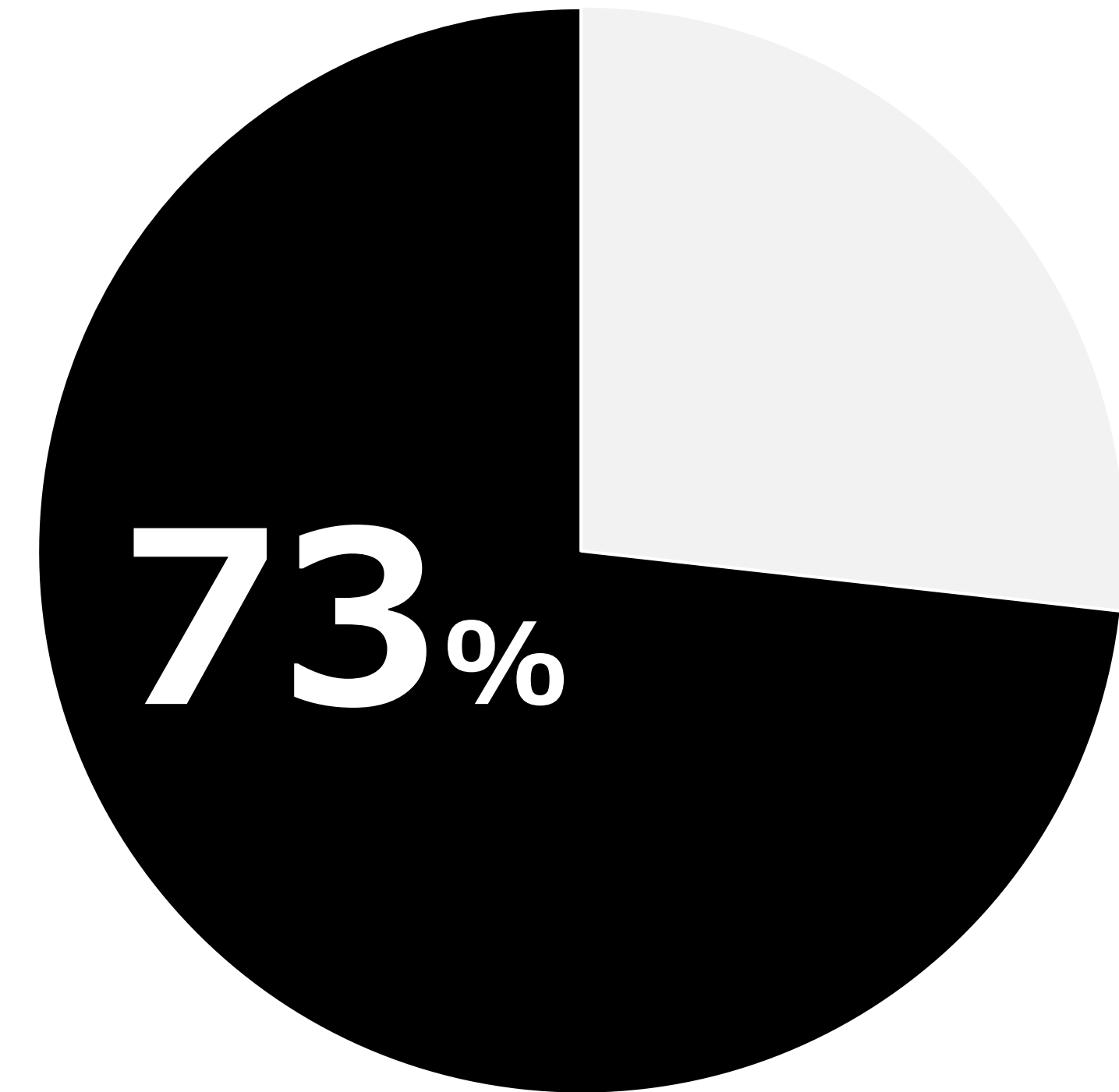
Q.インターネットを触ったことがない



65歳以上



75歳以上



80歳以上

ITリテラシーが全く無い方にどう使って貰うのか?

Q.見守りサービスを検討する際に重要視したこと(子供世帯)

第1位 親の心理的負担が少ない(45.7%)



第2位 初期費用や月々の支払料金

第3位 見守りサービスオプションが充実

第4位 サービス事業者の実績や知名度

第5位 ホームセキュリティサービス等とのセットプランがある

高齢者が喜ぶ、見守りサービスが必要



ITリテラシーが低い高齢者でも簡単に家族とつながれる
緩やかな見守りサービスを実現

ユーザビリティへの工夫事項

【工夫①】
**通信機能を内蔵しており、
面倒な工事や設定は不要で電源を付けるだけ**

【事実①】
高齢者が情報機器を利用しない理由は「必要性を感じないから」に次ぎ、
「使い方が分からないので、面倒だから」（26.8%）
——「第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果」（2015年、内閣府）

【工夫②】
**高齢者が使い慣れた
通常のテレビリモコンで操作することが可能**

【事実②】
全世代を通じて、高齢者はテレビに圧倒的に接触している
——「平成30年度版 国民情報通信白書」（2018年、総務省）



デザインへの工夫事項



GOOD DESIGN
AWARD 2016



DESIGN
AWARD
2018

- **新着通知で窓に光が灯る高齢者に分かりやすい演出**
→ 実家に子どもたちが帰ってきた様子をイメージ。
- **表示されるデータは、実家の生活感が想起できるように工夫。**
- **グッドデザイン賞ベスト100や世界的に権威あるドイツの「iF デザインアワード」も受賞**



技術的な工夫事項

【工夫①】

照度の変化と生活音の有無により、実家の起床や就寝をAIで判断し通知。

【事実①】

見守りサービス「親の心理的負担が少ない」1位

——「高齢の親を持つご家族向けの調査」（2016年、東京ガス（株）都市生活研究所）

【工夫②】

温度と湿度が一定以上に達すると「熱中症の危険性」を通知。

【事実②】

平成30年6月から9月の4か月間に、熱中症（疑い含む）により3,711人の高齢者が救急搬送され、そのうちの約7割が75歳以上の後期高齢者

——「STOP！高齢者の『熱中症』」（2018年、東京消防庁）

ふだんがわかる 起床から就寝まで



ユーザーの反響

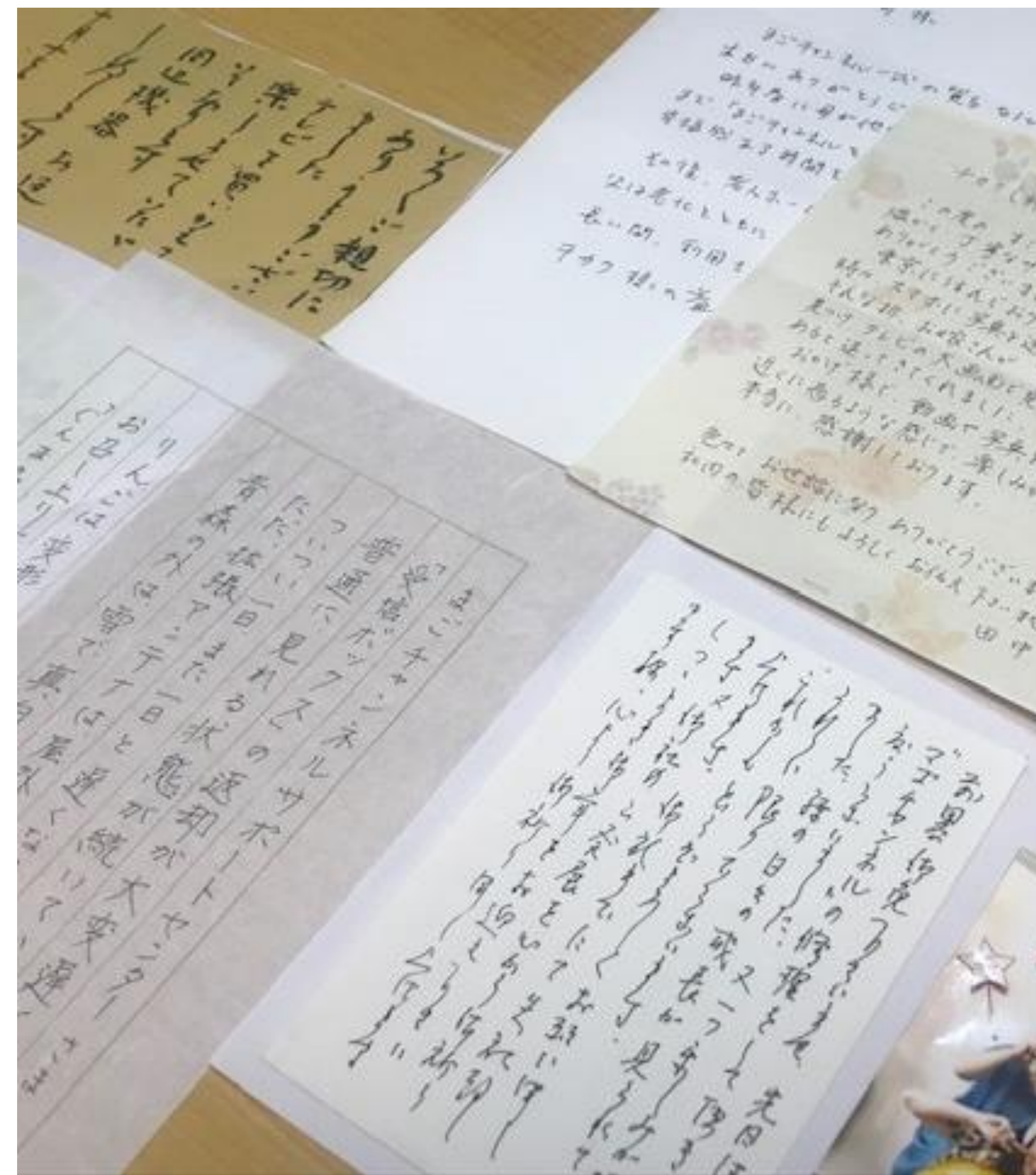
まごチャンネル利用者調査
(2019年、50代~90代123名)



家族と会話する機会が増加した
97%



家族と会話する回数が1.5倍以上に増えた 85%



国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部 齋藤民 室長

まごチャンネル使用がこうした身近な方々との交流の活性化に有効な可能性が示されました。

「まごチャンネルを生きがいにしている」「亡くなる寸前まで楽しんでいた」等、全国の高齢者から直筆のお手紙が届き、中には地元で採れたリンゴを送ってくださるユーザーも。

メディアの反響

朝日新聞朝刊、日経MJ、産経新聞、AERA、DIME、介護ポストセブン等で掲載。

- **親の見守りサービスは…親子が楽しみながら使えるものなら継続もしやすい。**

——2019年12月17日 介護ポストセブン

- **デジタルアレルギーの親が、意識せずデジタルの恩恵に与ることができる。**

——2019年12月23日 AERA

- **テクノロジーが昔ながらの親戚付き合いと相互見守りを復活させた。**

——2020年1月20日 産経新聞朝刊

2019.12.17 | 暮らし | ●
親の見守りサービスの種類・特徴 | どう選ぶ? 何が便利? 実録ルポ

少子高齢化が進み、高齢者の単身世帯も増えているいま、離れて暮らす親の生活や健康を見守るサービスが注目を集めている。市場が拡大している見守りサービスの種類や特徴をまとめてみた。さらに、編集部が目にした最新の見守りサービスを記者の実母が体験してみたら…。



デジタル親孝行
月額500円から

家電からドアまで
多彩な見守りサービス

近ごろ部
に流行るもの

高齢家族の見守り 手軽に楽しく安否確認

離れて暮らす「高齢家族の見守りサービス」が多様化している。最新の監視カメラなどはなく、IoT（Internet of Things、モノのインターネット）技術によって楽しく交流しながらお守りができるツールが登場。家電やガスの使用状況による月額オンライン検定の安否確認も、ユーザーを増やしている。（編集部リポート）

「モニタリング」を祖父の安否確認にも活用している山田夫妻。専用アプリで撮影する。（編集部リポート）

東京都のアクセラレーションプログラム 「ASAC」がきっかけで生まれた協業



ASACのメンター企業と採択企業が協働で開発したサービス